



つよい子

余市町立大川小学校 学校だより
第 5 号
令和 8 年 6 月 29 日発行

【令和8年度重点目標】・自分の思いを語り、相手の考えを認め、自己調整しながら主体的に学ぶ子どもの育成
・『心・環境・関係』を整え、自ら考えて行動する子どもの育成

「考える」という営み

～ 考える経験 と 生きる力 ～

校長 大山 敏広

◆先月末のスポーツフェスティバルでは、急な延期判断となり、保護者の皆様には多大なるご迷惑をおかけいたしました。予定の変更にもかかわらず、子どもたちの活動にご理解と温かいご声援を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

◆本校のスポーツフェスティバルは、低・中・高学年のブロック開催としていますが、今年度から「総練習」は全校児童一堂に会して行いました。学年の枠を超えて互いのがんばりを認め合う機会を設定したことで、下級生は上級生の力強い姿に「あこがれの気持ち」を抱き、上級生は下級生の一生懸命な姿を「微笑ましく讃える」、有意義な時間となりました。（総練習も悪天候により、縮小実施としましたが…）

低学年・中学年の部の運営においては、5・6年生が係活動としてそれぞれの役割に責任をもち、力を尽くしてくれました。その頼もしい姿に、学校を牽引する高学年としての大きな成長を感じております。現在は、スポーツフェスティバルで得た学びや経験を一過性のものにせず、今後の生活や学習に生かしてほしいと願い、日々の指導に当たっております。

◆先日の全校朝会では、「勉強したり、頭を使って考えたりすることは、昨日の自分から少しだけレベルアップすることを目指すもので、その積み重ねによって、自分の生活を豊かにすることができる。」という内容の話をしました。これは、決して教科の学習だけに限った話ではありません。「考える」ことは、目の前の状況と向き合い、どう行動するかを選択・判断し、自らの足で歩みを進めるということにつながります。



◆スポーツの世界でも、トップ選手たちは一瞬で状況を見極め、最適解を導き出して勝利を目指します。これは、日頃から積み重ねている「考えるという営み」に裏付けられているものと感じます。日々の生活の中で、自分の頭で考え、工夫し、納得して選択する。この一つひとつの「考える経験」が、子どもたちの『生きる力』を育むことにつながると考えます。

◆「考える力」を伸ばすため、子どもたちには、以下の4つを意識化することを提案しました。

- ・素直な心をもつ（新しい視点を受け入れる）
- ・聞く力をつける（情報や相手の思いを正しく掴む）
- ・聞くことと話すことのスイッチの入替をスムーズに行う（対話の中で思考を深める）
- ・どのような場面なのかを感じ取る（状況を客観的に捉える）

これらを意識し、日々の生活や学習の中で実践することは、将来どのような道に進むとしても必要な基盤になると思います。



◆行事に向けての取組や委員会・係活動、毎日の学習において協力し合う姿を見ていると、子どもたちは確実に「自ら考える」経験を積み重ねています。この「考える」という営みを大切に、子どもたちが未来をより豊かに生きられるよう、これからも丁寧に伴走し、指導してまいります。

◆7月は、「暑さ」への対応にも留意しながら、教育活動を進めてまいります。引き続き、本校の教育活動に御理解と御協力をよろしくお願いいたします。